

「医療・介護連携マップで検索できる各機関の機能」

第1回 『調剤薬局』

一般社団法人 函館薬剤師会 常務理事 地域医療保険部部長
株式会社 函館調剤薬局 執行役員 薬剤部長

水越 英通 様



保険薬局における薬剤師による在宅訪問サービスについて

薬剤師による在宅訪問サービスがある事をご存知でしょうか。このサービスは、医師または歯科医師の指示があり、在宅で療養し、通院困難な患者さんが対象となります。薬局での対応中の気付きや患者さんからの相談を受け、薬剤師から医師または歯科医師へ相談する場合、または家族やケアマネジャー等が薬剤師や医師、歯科医師へ相談する場合など様々な状況からこのサービスはスタートいたします。

では、薬剤師による在宅訪問サービスとはどのようなものなのでしょうか。例えば薬剤師がお薬をご自宅や入居先までお届けします。これにより来局が困難な患者さんや介助をされているご家族の負担を軽減します。さらに残薬の整理を行い、お薬の種類が多くて飲み忘れてしまうとか、お薬自体が飲みづらいなどの問題がある場合には、数種類のお薬を1回分ごとにまとめる「一包化」や服薬の状況に応じて飲みやすい剤型への変更を医師に提案し、服薬カレンダーやお薬 BOXなどを用いて患者さんやご家族による服薬の管理を容易にします。

薬の効果の有無を確認するとともに食事、排泄、睡眠などの体調チェックを通じて副作用が出ていないかを確認し、必要に応じて医師に薬の種類や用法・用量の変更の提案を行うとともに、情報を他職種と共有し、連携して患者さんの治療・療養をサポートします。



薬剤師による訪問サービスには医療保険で行う「在宅患者訪問薬剤管理指導」と介護保険で行う「居宅療養管理指導」があります。基本的に行われるサービス内容は同じですが、お住いの場所や保険の種類によって負担金に違いがあります。要支援または要介護の認定を受けている方は介護保険優先により介護保険によるサービス提供となり、居宅療養管理指導（要支援の場合は予防居宅療養管理指導）となります。ちなみに居宅療養管理指導における薬剤師訪問サービスは、区分支給限度基準額には含まれませんので安心してご利用になれます。

在宅訪問に関する詳しい内容については「かかりつけ薬局」または「かかりつけ薬剤師」にお尋ね下さい。



麻薬調剤の受け入れについて

医療用麻薬（以下、麻薬）とは、法律で医療用に使用が許可されている麻薬のこととで、癌による痛みや呼吸困難感を緩和する薬剤です。また、一部の麻薬では非癌性の痛みにも使用する場合もあります。

麻薬の調剤は医療機関が発行した麻薬処方箋により行われます。ただ、すべての薬局が調剤可能ではなく、麻薬小売業者（都道府県知事の免許を受けた薬局等）でなければ麻薬の調剤をすることできません。



薬剤師は麻薬の管理と患者さんに交付した時の服薬指導、お渡ししたあとの効果、副作用の確認等を行っています。また、患者さんに交付後に使用しなくなつた麻薬を調剤した薬局に返却した場合に廃棄等も行っています。

現在、多くの薬局は麻薬小売業者となっています。しかし、すべての薬局が麻薬の在庫を置いているわけではありません。在庫していても一部の品目しか置いていない場合もあります。道南地域では土日祝日は麻薬の購入ができない場合もあり、時間帯や曜日によっては対応が困難な場合もあります。まずは麻薬の処方の受付が可能かどうか薬局にお問合せください。

無菌調剤とは

在宅医療が進むなか、在宅療養中に点滴治療を受ける患者さんも増えてきました。

中心静脈栄養や抗がん剤の点滴などに使用する注射剤の混合は、今まで病院で行われてきましたが、薬局でも無菌製剤を作り、患者様へお届けする機会が増えております。

無菌製剤とは、無菌調剤が行われた薬のことです。



奥の部屋が無菌調剤室
になります

無菌調剤とは、無菌環境の整った無菌調剤室において、自宅療養する患者さんが使用する輸液や注射薬を混合することです。高カロリー輸液による静脈栄養では、患者さんの状態に合わせた薬剤の混合が必要ですが、微生物による汚染を避けることが重要となります。

無菌調剤室は薬局内で場所を取るため、なかなか持つことができません。そのため、クリーンベンチで調剤を行う薬局もあります。クリーンベンチとはごみやほこりなどの混入を避けながら作業を行う装置のことです。

無菌調剤をスムーズに行える薬局かどうかは、退院までに余裕をもって確認をお願いいたします。



クリーン
ベンチ



作業の際に
は防護服を
着用します

<函館市医療・介護連携支援センターからのお知らせ>

当センターの医療・介護連携マップに掲載されている薬局は、在宅対応されている薬局になります。今回のコラムに関する薬局の機能（無菌調剤、麻薬調剤）に関しては下記の手順で検索可能です。皆さま是非、ご活用ください。

The screenshot shows the homepage of the 'Medical and Nursing Collaboration Map' website. At the top, there is a navigation bar with links for HOME, '函館市医療・介護連携支援センターとは' (About the Center), '医療・介護連携マップについて' (About the Map), '研修情報' (Training Information), '各種ダウンロード' (Various Downloads), 'よくあるご質問' (Frequently Asked Questions), '用語集' (Glossary), and 'MENU'. Below the navigation bar, the main content area features a title '医療・介護連携マップ' with a location pin icon. A green callout bubble points to the '薬局' (Pharmacy) button under a '種別検索' (Type Search) section. Another green callout bubble points to the '検索' (Search) button next to a search input field containing the text '例: 医師会病院'. A third green callout bubble points to two checkboxes: '無菌調剤の対応' (Aseptic Compounding Response) and '麻薬調剤の受入' (Controlled Substance Dispensing Acceptance). A large green callout bubble on the right side contains the text: '検索したい項目をチェックして、「一覧を表示」をクリックすると対応している薬局の一覧ができます' (Check the items you want to search, and click 'List Display' to see the list of pharmacies that respond to them). A fourth green callout bubble at the bottom left points to a link 'こちらから' (From here) followed by '医療・介護連携マップ' (Medical and Nursing Collaboration Map). To the right of this link is a QR code labeled '連携MAP' (Collaboration Map). At the bottom of the page, a large green callout bubble points to a link '函館薬剤師会のホームページはこちらから' (From here) followed by '函館薬剤師会' (Hakodate Pharmaceutical Society).

函館薬剤師会のホームページでは、「在宅医療支援薬局リスト」が閲覧できます。当センターホームページの関連サイトにも函館薬剤師会ホームページのリンクを貼っています。